

謹賀新年



「今年は寅年！」



令和4年1月1日

発行人●阿南町公民館編集部

編集人●公民館報編集委員会

印刷所●飯田共同印刷株式会社

連絡●〒399-1511 東條58-1 TEL 22-2270 FAX 22-2287 E-mail:kyouiku@town.anan.nagano.jp

あなん

もくじ

- P1 表紙 遊歩道
- P2 わが町を盛り上げよう
- P3 大陸流転
- P4 公民館分館紹介
- P5 おらほの若い衆、私の趣味・自慢、私の夢
- P6 わが町の石像文化財
- P7 できごと
- P8 あの人この人、うちのホープ、編集後記

遊歩道

明けましておめでとございます。ます。

コロナ禍にて二年が過ぎます。行事中止や各団体の活動自粛が続く、公民館報も記事探しに困る日々でした。

十一月にわが家のウォシュレットが壊れてしまい、すぐに取り替えをと頼んだら、「納品は一月末ころになるかも。コロナの影響です」という業者の話。部品製造の遅れで給湯機が使えず、鍋で一杯ずつお湯を運んで風呂に入ったとか、似たような状況が報道されていました。コロナの大変さは知っているつもりでしたが、こんな風に自分と関係してくるとは考えていませんでした。

幸いトイレは、「旧タイプならなんとかなる」と連絡があったて、さわやかな正月を迎えられるはこびとなったのですが。

今年はまだ前年の暮らしが戻って、みなさんの元気な活動を館報にいっぱい載せられることを願っています。

大陸流転

敗戦そして抑留8年 (31)

熊谷秋穂氏著

長い間連載させてもらった大陸流転ですが、今回が最終話となります。著者の故熊谷秋穂さんのこれまでの資料のご提供・ご協力に對し感謝申し上げます。

日本人技術者

中国に抑留されていた軍人、軍属、技術者の数は明らかにされていないが、数万人にのぼるのではないかと思う。

その子弟で日本の教育を受けられなかった児童に教育の場を与えるのが、この子弟学校だった。

医師の子供もいれば、電気技師の子供もいる。炭鉱の技術者の子供、鉄道技術者の子供と、親の職種は多業種に渡る。技術者が強制的に抑留されていたのだ。

この技術者によって、中国の医療は確立され、発電所が稼働し、鉄道業務も支障なく順調に動いて来たのだ。鶴崗炭鉱も数多くの日本人技術者が指導に当たっていた。中共軍と蒋介石軍による内戦で、重要な施設が破壊されていたのだが、この日本人技術者の手によって

復興を遂げたのも確かだ。中国革命に貢献した日本人のエネルギーも、結構大きかったのではないかと思っている。

引き揚げ

七月中旬、「日本人は引き揚げ」の命令が出た。

この時も引き揚げに該当する者と残留組とに別れた。杉林好雄さん、青木茂さんは思想強固で残留組だ。俺は思想不好で、幸いにも引き揚げ組に編入された。

記念章、写真は全部没収された。子弟学校で写した写真も漢口で写したのも所持することは許されなかった。肌身離さず持っていた写真までも没収された。厳重な検閲であった。「日本に帰れるんだから仕方ない」とあきらめることは出来たが、一生の思い出となる記念のものもあつたのに残念でならない。漢口から長江を下って、上海に引き揚げ船の入港を待った。引き揚げ船の入港を待った。身も心も弾んだ。

苦しかった逃避行、機銃掃射、空爆、炸烈する砲弾、夜を徹した行軍、夜の重労働、穴倉生活、飢えと寒さ、直面していた死……。走馬燈のごとく、忘れようと努力しても俺の脳裏を一緒になって駆け巡っている。

八月八日だったと思う。待ちに待った高砂丸が上海港に着岸した。今度こそ乗船だ。簡単な荷物の検査を受けた。これで中国ともお別れだ。さらば中国だ。

進歩分子といわれたほんの一部の人達の中には、高砂丸の甲板で赤旗を振ってインターナショナルを歌い出す者もいたが、まもなく静かになった。

八月十一日の早朝、かすかに日本列島が目に入った。

「万歳、万歳、万歳」

大勢が甲板に出て叫んでいた。長い間夢にも見た日本だ。母や弟妹はどんな生活をしているのか。その安否すら八年間に一度の文通も出来なかったので知るよしもなかった。

舞鶴港の棧橋を過ぎると、色とりどりの歓迎ののぼり旗が所狭しと立ち並んでいた。

歓迎の人の波がいつぱいだ。労をねぎらいながら抱き合っていて泣いている人、大声で名前を呼ぶ人、歓迎のスタイルは様々だ。

父の弟、征矢菊十叔父さんが、大勢の中から俺を見つけて駆け寄ってきた。

「秋穂、よく帰ってきたな。ご苦労様、ご苦労様」

叔父さんは俺の手を固く握り締めるなり、肩を抱きかかえるようにした。眼鏡の奥の目からは涙が流れていた。

俺は全てに解放されたような安堵感と、夢にまで見てきた懐かしい祖国、日本に生きて帰ってくることの出来た喜びで、長い間蓄積されてきたもろもろの思いが、一度に涙となつてとめどなくあふれ出た。俺は感激して、人目をばかるとなく泣いた。

ほかに、村役場厚生係の勝野龍夫さん、母の実家、佐藤良治さんが出迎えてくれていた。

帰りの電車の中で、母のこと、弟のこと、妹のことは、細かく知ることが出来た。皆の世話になりながら元気に暮らしているとのこと、ひとまず安心した。



引き揚げ後初の正月 (筆者は後列右)

公民館分館紹介

富草地区 梅田分館

今日、私が紹介をしますのは、小さな神社のお祭りについてのお話です。

小松神社という神社で、上梅田東平、下梅田、横林地区でお祭りをしています。

平成元年までは、春、秋の礼大祭があり総代の方々当番の人たち三十人程が集まり、神事後、御神酒をいただき、家に帰るといようなお祭りでした。このお祭りに声を上げたのが、平成元年のお祭りを担当して

た会長でした。

もう少し地区全体で盛り上げる祭りはできないかとのことで、地区の青年に集まっていたいただき、第一回お祭り青年が発足することになりました。

まずは総代の方に相談をして、了承を得ることからとのこと、三人程で、当時の総代長のところへ相談に行きました。返答は、「それはいいことだから若い衆でやってみたらどうか」と了承をしていたら、平成元年から発足となり、どんなことをしたら小松神社に人を集めることができるのかといろいろと話し合い、「花火を出したらどうか」や「夜店で金魚すくいやおもちやなどを出せばどうか」などさまざまな意見が出ました。これだけでは何か物足りないという声も上がり、演芸大会を行ってみたらとのこと、歌手の方を呼ぶことになり、この社務所では、演芸大会は無理ではないか



小松神社



夜祭の様子

ということ、舞台も改造することになりました。何度も会合を開く中で資金はどうするかという話になり、地区全戸から寄付をお願いしてみようと考え、一万円位を目途に全員で寄附のお願いにまわりました。地区の寄附のほか個人、業者からも多くの寄附をいただきました。

お祭り青年でも一人一万円を出し合い資金の心配はなくなり、秋季大祭は、十月の第一土曜日と日曜日になり、十日ほど前から舞台を作り、灯籠、夜店の段取りなどが始まります。四十人

ほどこいと、適材適所の人材がいるもので、夜祭り前夜までには完成し本番を迎えることができました。



花火

当日は、出店で人を集め、ピョンゴゲーム、歌謡ショー、打ち上げ花火、境内で行う大三国と進み、第一回小松神社秋の祭典が盛大に終わることができました。平成元年から令和元年まで盛大に行われてきたお祭りですが、コロナウイルス感染症拡大防止のため、ここ二年程夜祭ができていません。早くコロナウイルスが終息して、また盛大に祭りができることを願っています。発足当時はまだ私は幼かったため、当時の様子を聞き、書いてみました。

私たちの趣味・自慢!

和合 村上 春男さん 弘子さん

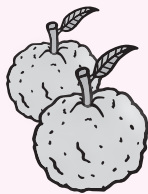
20年くらい前、春男さんが農協の役員だったころ、農協祭で大下条の人たちといっしょに五平もち用のゆずみそを作ったことがありました。「それが、うまかった」そうで、和合三度の近藤ミノエさんから作り方を教えてもらい、それから毎年12月に作ってあちこちに配って喜ばれています。

みそ1kgにゆず2~3個、砂糖、みりん、すりごまを加えて、ビン3本分ができます。最近では50本くらい作っているそうです。

以前は和合にゆずはなく貴重でした。親戚からもらったりして作ってききましたが、この冬初めて



庭のゆずの木に実がなあって、本当に自家製のゆずみそができました。



おらぼの若い衆

大下条 三共 城田 ほんの花さん

・あなたが今やっていることについて教えてください。

4月から飯田市の病院で看護師として働いています。戸惑うこともありますが、仕事は楽しいです。

患者さんが心穏やかな1日を過ごせるような看護をすることが目標です。

・これからやりたいことは何ですか。

動物が大好きなので、無理のない程度でビーガン料理をがんばろうと思っています。

それから、将来は動物保護の活動をしたいと思っています。

動物に優しい世界になることを願っています。

※ビーガン料理

肉や魚などの動物性食品を一切使わずに作った料理

僕の将来の夢はパティシエになることです。
理由は、スイーツ作りは楽しくでき、自分が作ったスイーツを食べてもらって、美味しいと言ってもらいたいからです。
作りたいスイーツは、自分が好きなお菓子です。主に、フルーツタルトやケーキを作りたいです。
僕はパティシエになるために、努力して、夢をかなえたいです。



私の夢

新野小学校 6年生

かなだ 桂治さん



わが町の石造文化財④

神子谷の双体道祖神(北條)
古式を伝える清純な祈り

双体の神さまが、衣装を整え姿勢を正し、目を閉じ、手を合わせて一心に祈りを捧げている。祈るのは旅人の安全だろうか。人々の幸せと豊穰な稔りだろうか、こけしを思わせるような、ふくよかでほのぼのとした叙情に満ちた像容である。

地元の画家南島金平さんが、この像を多く描いているが、道祖神の人気投票をしたら好感度上位に入ること間違いなし、と思わせてくれるような、地元の人たちにも愛されている道祖神である。

温田駅で降りて、天竜川を渡り、阿南病院脇を右折すると、じきに神子谷の集落に入る。集落の入口にあたる道上の土手に、この道祖神のほか丸彫りの馬頭観音など数体の石仏が不規則に

並び、祀られている。

この道は天龍通船の船着場に至る通り道であり、竜田橋で天龍川を越えて泰阜村にも通じる道で、かつては荷を運ぶ馬や人でにぎわった道である。

この道祖神は直径三〇cmの円形の基壇から破風型の屋根まで一石で造られ、全身長は七〇cm、基壇から上の碑高五五cm、碑巾二七cm、像高は背の高い方で三〇cmである。基壇には享保一七年(一七三三)の年号が刻まれている。

石は砂岩で、破風型の屋根は破損が目につくが、屋根が守ってくれたのか、二体の像は風化



祈りを捧げる双体道祖神

がみられるものの傷らしい傷もなく、かえって風化によって、輪郭をやわらかくし、やさしさを増しているようにみえる。二体は右の方がわずかに背が高く、顔にも違いを感じるが、姿かたち、しぐさまで全て同じ。右の顔に口紅が残っているが、女性だろうか、身なりは束帯ともみえ、男とも女ともには判じがたい。この手の合掌型双体道祖神では、男女の区別のないものが古式型であるとされている。

この道祖神は典型的な古式型とあってよいだろう。

実は、しばらく前まで下伊那地方では双体道祖神としては一番古いとされてきた。古さの順位が替わったのは、その後の調査(『伊那』通巻七〇一号、若林栄一氏による)で同じ北條地区内の中谷にある道祖神が、これより一五年古い享保

二年のものであることがわかったからである。

したがって現在のところ、郡内では一番古いのは中谷のもの、二番目はこの神子谷のものということになる。中谷の道祖神については紙面を割く余裕がないが、男神が笏(しやく)を持ち、男女が寄り添って立つ添立型である。

双体道祖神を訪ね歩くと、合掌型、添立型のほか、男女が対面して手を取り合う対面型、握手型、抱擁型、婚儀の祝宴を表す祝言型などさまざまで、表現の自由さ、多種多様さにおどろかされる。

豊穰や子孫繁栄への願いが深化して、婚姻や男女の愛の表現に昇華していったものとみられている。しかし、神子谷の道祖神は古式型のゆえか、そうしたものは趣を異にし、厳粛であり、純粹であり、清純な美しさをみせる。祈りの姿に、こちらも手を合わせて返したくなるような、そんな気持ちにさせてくれる道祖神である。

できごと

(11月・12月)

町民登山

10月30日



今年の町民登山は平谷村の高嶺山（たかねやま）（標高1,599m）へ登りました。参加者は事務局を含めて6人でした。登山道は紅葉の進んでいて、きれいな景色を楽しみながら登る

ことができました。登山道の途中にはぶなの大木があり自然を体感することができました。山頂ではのろし上げリレーの真っ最中で、残念ながら高嶺山の狼煙は上手く上がりませんでした。他の山から狼煙が上がっていると確認することができました。

新野公民館史跡巡り

10月31日

例年、新野公民館では自然観察会を開催していますが、今年は趣を変えて新野に縁のある「関氏」に関わる史跡を巡りました。当日は佐川金壽さんを講師に迎え、参加者11人のもと、「上田城址（大下条）」、「和知野権現城（大下条）」、「瑞光院（新野）」、「お万様（天龍村）」の4か所を巡りました。道中はいにくの雨模様でしたが、参加者の皆さんは佐川さんから関氏の歴史や史跡との関わり

りについての説明を熱心に聞き、地元の歴史をより深く学ぶよい機会になりました。



旧道歩きツアー 11月13日

昨年、新型コロナウイルスの影響により中止となった旧道歩きツアーを、2年ぶりに開催しました。今回は帯川分校跡地か

ら本村の熊野社までの旧道ルートを、使われていた当時の歴史や阿南町の名誉町民である西尾實先生のことなどを学びながら歩きました。丁度、紅葉も見ごろを迎え、秋を感じながらのツアーとなりました。



あの人この人



富草 栗野

小池 彭雄さん・みどりさん

この寺を会場に赤そば会(そば打ち試食会)を開催することができました。大晦日には2年参りの除夜の鐘つきとともに、大場さんご夫婦にご協力いただき、赤そばの年越しそばをふるまいました。いつもお力添えをいただいている皆様に感謝して地域に恩返しができるようにしていきたいですね。」

ミングよく、娘の学年である富草小学校4年生と赤そば作りに取り組み、先日無事に

約48年ぶりに執り行われた5月2日の晋山式を経て、曹洞宗関昌寺の第28代住職となった彭雄さん。医王山関昌寺の起源は1585年(天正12年)、430年の歴史があり、平成16年に人心浄化救済として、前住職彭道さんが建立された県下最大級の観世音菩薩像に、北は北海道から南は九州まで実に多くの方が足を運ばれている。

近年の寺離れの傾向は田舎の方が顕著と言われ、今後十年で廃寺となるお寺もかなり出ると予想される。新任職となり第一号の寺報も発行された彭雄さんの思いを聞く。

「下條村やまみつ愛好会を通じて知り合った大場さんと、赤そば作り隊・食べ隊を結成。ご縁もありタイ

仏縁があり結婚14年目にして大黒様となった妻のみどりさんは東京のご出身。ご縁は平久のタケノコ掘りだとか。今は紫陽花寺を目指して、毎年懸命に景観作業にも取り組まれ、開かれた場所として、いつでもどなたでもお立ち寄りいただける地域とともにある寺を目指し、座禅会やクラフト教室など幅広い可能性を広げていきたいそうです。

参道を通り、六地藏等の石灯籠の間を進むと杉檜など樹齢400年近い巨木が続く、左右には弁天池等4つの池。太鼓橋を経てお稻荷様、参門へと続く道をゆっくり歩いてぜひ関昌寺へお越しください。四季折々の変化が楽しめ、カメラマンも多く訪れますよ。

うちのホープ



富草 雲雀沢

小島 光弘さん、みゆきさんの お子さん 愛望ちゃん

こんにちは。私の名前は愛望です。富草保育園のうめ組で毎日楽しく遊んでいます。

3か月ほど前から空手を始めてお友達といっしょに練習をしています。家でも空手ごっこをしてお父さんとパンチやキックの練習をしています。まだまだ始めたばかりだけど、もっと練習をして上手になりたいな。

休みの日は、近所のお友達と遊んだり、じいちゃんばあちゃんのお仕事を手伝ったりしています。外で体を動かすのが好きだから、畑仕事も楽しいです。たまに手伝いよりも畑で遊ぶ方が夢中になっちゃうこともあるけどね。

私は大きくなったら、美容師さんになってみんなの髪を切ってあげたいです。かわいくしてあげて、みんなに喜んでもらいたいな。お父さんお母さんの髪も切ってもらいたい。

4月からは、水色のランドセルを背負って小学校へ行きます。1年生になったら、勉強をがんばりたいです!!



最近、新聞等で「自分史の出版」という言葉をよく見かけるようになりましした。自分史は、従来から存在していた自叙伝(何らかの形で成功した個人の事業・事項を中心とした記録、立志伝)とは違う視点で、過去の思い出の事柄を時系列で書いた自分自身の年表誌だそうです。自分は自問自答の毎日ですが、皆さんも過去を振り返り自分史の執筆を考えてみたらいかがでしょうか?

また、これからも自分史が書けるような生き方を願っています。